



ネットワークプロファイルの設定

- [ネットワークプロファイルの概要 \(1 ページ\)](#)
- [アシュアランス用のネットワークプロファイルの作成 \(1 ページ\)](#)
- [ファイアウォール用のネットワークプロファイルの作成 \(3 ページ\)](#)
- [ルーティング用のネットワークプロファイルの作成 \(4 ページ\)](#)
- [スイッチ用のネットワークプロファイルの作成 \(7 ページ\)](#)
- [ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#)

ネットワークプロファイルの概要

ネットワークプロファイルを使用すると、設定を行い、それを特定のサイトやサイトグループ、に適用できます。Catalyst Center は、最大 50 のネットワークプロファイルをサポートします。Catalyst Center のさまざまな要素のネットワークプロファイルを作成できます。

- [アシュアランス用のネットワークプロファイルの作成 \(1 ページ\)](#)
- [ファイアウォール用のネットワークプロファイルの作成 \(3 ページ\)](#)
- [ルーティング用のネットワークプロファイルの作成 \(4 ページ\)](#)
- [スイッチ用のネットワークプロファイルの作成 \(7 ページ\)](#)
- [ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#)

アシュアランス用のネットワークプロファイルの作成

アシュアランスのネットワークプロファイルを作成すると、問題を設定して、グローバルな問題の設定とは別にサイトまたはサイトのグループに適用できます。問題を有効または無効にしたり、優先順位を変更したりできます。

注：

- アシュアランスでは、ネットワークデバイスの正常性スコアへの同期は、グローバルな問題設定に対してのみ使用できます。カスタムの問題設定では使用できません。詳細については、*Cisco Catalyst Assurance User Guide*を参照してください。
- 一部のグローバルな問題はカスタマイズできません。これらの問題は、変更するカスタム問題のリストには表示されません。
- 変更された問題をリストの一番上に表示するには、[Last Modified] でソートします。
- カスタム設定を削除するには、最初にすべてのサイトの割り当てを解除する必要があります。

- ステップ 1** 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：[Design] > [Network Profiles] の順に選択します。
- ステップ 2** [+Add Profile] をクリックし、[Assurance] を選択します。
- ステップ 3** [Profile Name] フィールドに有効なプロファイルの名前を入力し、[Next] をクリックします。
Catalyst Center によってプロファイルが追加され、[Edit Profile] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 設定する問題のタイプを表示するには、[DEVICE TYPE] と [CATEGORY] フィルタを設定します。
- ステップ 5** [Issue Name] 列の問題をクリックすると、設定を含むスライドインペインが開きます。
- (注) いくつかの問題については、設定に加えられた変更は複数のデバイスタイプで共有されます。スライドインペインに、影響を受けるデバイスタイプを示す注意が Catalyst Center によって表示されます。
- ステップ 6** この問題の Catalyst Center によるモニターリングを有効または無効にするには、[Enabled] トグルボタンをクリックします。
- ステップ 7** 問題の優先順位を設定するには、[Priority] ドロップダウンリストをクリックし、優先順位を選択します。次のオプションがあります。
- [P1]：ネットワーク運用に幅広い影響を与える可能性があり、早急な対応を必要とする重大な問題。
 - [P2]：複数のデバイスまたはクライアントに影響を与える可能性がある重大な問題。
 - [P3]：局所的または最小限の影響を与える軽微な問題。
 - [P4]：ただちに問題になるものではないが、対処するとネットワークのパフォーマンスを最適化できる警告レベルの問題。
- ステップ 8** (一部の問題のみ) [Trigger Condition] エリアで、問題が報告される条件のしきい値を変更できます。
トリガー条件の例：
No Activity on Radio(2.4 GHz) >= 60 minutes.
Memory Utilization of Access Points greater than 90%.
- ステップ 9** (任意) 設定に変更がある場合は、[View Default Settings] の上にカーソルを置くと、デフォルトの設定が表示されます。問題の設定をすべてデフォルト値に復元するには、[Use Default] をクリックします。

ステップ 10 [Apply] をクリックします。

ステップ 11 (特定の問題について) [Manage Subscriptions] をクリックすると、サポートされている問題がトリガーされたときの外部通知に登録できます。

ステップ 12 このプロファイルサイトをサイトに割り当てるには、[Assign Sites] をクリックします。このプロファイルに関連付けるサイトの横にあるチェックボックスをオンにし、[Save] をクリックします。

[Edit Profile] ウィンドウが表示されます。

(注) 親ノードまたは個々のサイトを選択できます。親ノードを選択すると、その親ノードに属する子もすべて選択されます。チェックボックスをオフにして、サイトの選択を解除できます。

ステップ 13 [Done] をクリックします。

新しく追加されたプロファイルが、[Network Profiles] ウィンドウに表示されます。

ファイアウォール用のネットワークプロファイルの作成

このワークフローでは、次を実行する方法を示します。

1. カスタム構成を作成します。
2. Firepower Threat Defense (FTD) 構成を作成します。
3. プロファイルの概要を表示します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Profiles]** の順に選択します。

ステップ 2 [+Add Profile] をクリックし、[Firewall] を選択します。

[Firewall Type] ページが表示されます。

ステップ 3 適応型セキュリティアプライアンス (ASA) ファイアウォールなどの通常のファイアウォール用のカスタム構成を作成するには、次の手順を実行します。

- a) [Name] フィールドに、プロファイルの名前を入力します。
- b) [Devices] ドロップダウンリストからデバイスの番号を選択します。
(注) プロファイルごとに最大 10 のデバイスを選択できます。
- c) [Device Type] ドロップダウンリストからデバイスのタイプを選択します。
- d) (任意) [Device Tag] ドロップダウンリストからデバイスタグを選択します。
- e) [Next] をクリックします。

[Custom Configuration] ページが表示されます。

- f) [Template] ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。

(注) テンプレートがない場合は、**[Design]>[CLI Templates]** で少なくとも 1 つのテンプレートを作成する必要があります。詳細については、[テンプレートの作成](#)を参照してください。

g) **[Next]** をクリックします。

[Summary] ページが表示されます。このページには、カスタム構成の概要が表示されます。選択されたデバイスタイプに基づいて、ハードウェアの推奨事項が提示されます。

h) **[Save]** をクリックします。

[Network Profiles] ページが表示されます。

i) ネットワークプロファイルにサイトを割り当てるには、**[Assign Sites]** をクリックします。詳細については、[サイトの作成、編集、削除](#)を参照してください。

ステップ 4 FTD デバイスを設定するための FTD 構成を作成するには、次の手順を実行します。

a) **[Name]** フィールドに、プロファイルの名前を入力します。

b) **[Devices]** ドロップダウンリストからデバイスの番号を選択します。

(注) プロファイルごとに最大 10 のデバイスを選択できます。

c) FTD ファイアウォールをプロビジョニングするには、**[FTD]** チェックボックスをオンにします。

d) **[Device Type]** ドロップダウンリストからデバイスのタイプを選択します。

e) (任意) **[Device Tag]** ドロップダウンリストからデバイスタグを選択します。

f) **[Next]** をクリックします。

[FTD Configuration] ページが表示されます。

g) **[Routed Mode]** または **[Transparent Mode]** オプションボタンをクリックします。

h) **[Next]** をクリックします。

[Summary] ページが表示されます。このページには、FTD 構成の概要が表示されます。選択されたデバイスタイプに基づいて、このページにハードウェアの推奨事項が示されます。

i) **[Save]** をクリックします。

[Network Profiles] ページが表示されます。

j) ネットワークプロファイルにサイトを割り当てるには、**[Assign Sites]** をクリックします。詳細については、[サイトの作成、編集、削除](#)を参照してください。

ルータ用のネットワークプロファイルの作成

このワークフローでは、次を実行する方法を示します。

1. ルータ WAN を設定します。
2. ルータ LAN を設定します。

3. 統合スイッチ構成を設定します。
4. カスタム構成を作成します。
5. プロファイルの概要を表示します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design]** > **[Network Profiles]** の順に選択します。

ステップ 2 **[+ Add Profile]** にカーソルを合わせ、**[Routing]** を選択します。

ステップ 3 **[Router WAN Configuration]** ページが表示されます。

- **[Name]** テキストボックスにプロファイル名を入力します。
- それぞれのドロップダウンリストから、**[Service Providers]** および **[Devices]** の数を選択します。プロファイルあたり最大3つのサービスプロバイダと10つのデバイスがサポートされています。
- ドロップダウンリストから **[Service Provider Profile]** を選択します。詳細については、[サービスプロバイダプロファイルの設定](#)を参照してください。
- ドロップダウンリストから、**[Device Type]** を選択します。
- **[Device Tag]** に一意の文字列を入力して異なるデバイスを識別するか、ドロップダウンリストから既存のタグを選択します。2つ以上のデバイスが同じタイプの場合は、デバイスタグを使用します。すべてのデバイスが異なるタイプの場合、デバイスタグはオプションです。選択内容は、ネットワークプロファイルに適用される **Day-0** および **Day-N** テンプレートの一致基準の一部として使用されるため、必ず適切なタグを選択してください。
- デバイスごとに1つ以上の回線リンクを有効にするには、**[O]** をクリックし、**[Connect]** の横のチェックボックスをオンにします。ドロップダウンリストから、**[Line Type]** を選択します。**[OK]** をクリックします。

複数のサービスプロバイダーを選択した場合は、プライマリインターフェイス用のギガビットイーサネットとセカンダリインターフェイス用のセルラー、または両インターフェイス用のギガビットイーサネットを選択できます。また、プライマリインターフェイス用のセルラーとセカンダリインターフェイス用のギガビットイーサネットを選択することもできます。

(注) Cisco 1100 シリーズ サービス統合型ルータ、Cisco 4200 シリーズ サービス統合型ルータ、Cisco 4300 シリーズ サービス統合型ルータ、および Cisco 4400 シリーズ サービス統合型ルータのみが、セルラーインターフェイスをサポートしています。

- **[Next]** をクリックします。

ステップ 4 **[Router LAN Configuration]** ページが表示されます。

ルータの LAN 設定をスキップするには、**[Skip]** ラジオボタンをクリックし、ステップ 5 に進みます。ルータ LAN を設定するには、次の手順を実行します。

- **[Configure Connection]** オプションボタンをクリックし、**[L2]** または **[L3]**、あるいはその両方を選択します。

- [L2] を選択した場合は、[+Add Row] をクリックします。ドロップダウンリストから [Type] を選択し、[VLAN ID/Allowed VLAN] および [Description] を入力します。[+ Add Row] をクリックすると複数の行を追加でき、[X] アイコンをクリックすると行を削除できます。
- [L3] を選択した場合は、ドロップダウンリストから [Protocol Routing] を選択し、[Protocol Qualifier] を入力します。
- [Next] をクリックします。

ステップ 5 ルータ設定に基づいて、[Integrated Switch Configuration] ページが表示されます。

[Integrated Switch Configuration] ページが表示されない場合は、ステップ 6 に進みます。

統合スイッチの設定では、新しい VLAN を追加したり、ルータの LAN 設定で選択した以前の設定を保持したりすることができます。

- 1 つ以上の新しい VLAN を追加するには、[+ Add Row] をクリックします。
- ドロップダウンリストから [Type] を選択し、[VLAN ID/Allowed VLAN] および [Description] を入力します。
- VLAN を削除するには、[X] アイコンをクリックします。
- [Next] をクリックします。

(注) Switchport インターフェイスのサポートは、Cisco 1100 シリーズおよび Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータでのみ使用できます。

ステップ 6 [Custom Configuration] ページが表示されます。

カスタム構成はオプションです。この手順をスキップしても、[Network Profiles] ウィンドウでいつでも構成を適用できます。

カスタム構成の追加を選択した場合：

- 必要に応じて、[Onboarding Template(s)] または [Day-N Template(s)] タブをクリックします。
- ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。テンプレートは、[Device Type] と [Tag Name] でフィルタ処理されます。
- [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Summary] ページで、[Save] をクリックします。

このページには、ルータ設定の概要が表示されます。複数のデバイスがある場合は、各デバイスをクリックして設定データを表示できます。選択されたデバイスとサービスに基づいて、ハードウェアの推奨事項が提示されます。

ステップ 8 [Network Profiles] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、ネットワークプロファイルを編集および削除できます。

[Assign Site] をクリックして、ネットワーク プロファイルにサイトを割り当てます。詳細については、[サイトの作成、編集、削除](#)を参照してください。

スイッチ用のネットワークプロファイルの作成

スイッチングプロファイルには、次の2つのタイプの設定テンプレートを適用できます。

- オンボーディングテンプレート
- Day-*n* テンプレート

始める前に

デバイスに適用する [Onboarding Configuration] テンプレートを定義します。このようなテンプレートには、ネットワーク上で管理できるようにデバイスをオンボードするための基本的なネットワーク設定コマンドが含まれています。[デバイス設定の変更を自動化するテンプレートの作成](#)を参照してください。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します : **[Design] > [Network Profiles]** の順に選択します。

ステップ 2 [+Add Profile] をクリックし、[Switching] を選択します。

ステップ 3 [Switching profile] ウィンドウで、[Profile Name] テキストボックスにプロファイル名を入力します。

作成するテンプレートのタイプに応じて、[OnBoarding Template (s)] または [Day-N Template (s)] をクリックします。

- [Add] をクリックします。
- [Device Type] ドロップダウンリストから、[Switches and Hubs] を選択します。
- ドロップダウンリストから [Tag Name] を選択します。この手順は任意です。選択したタグがすでにテンプレートに関連付けられている場合は、そのテンプレートのみが [Template] ドロップダウンリストで使用できます。
- ドロップダウンリストから [Device Type] を選択します。
- ドロップダウンリストから [Template] を選択します。すでに作成済みの [Onboarding Configuration] テンプレートを選択できます。

ステップ 4 [Save] をクリックします。

スイッチに設定されているプロファイルは、スイッチのプロビジョニング時に適用されます。サイトを有効にするには、サイトにネットワークプロファイルを追加する必要があります。

ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成

始める前に

- **[Design] > [Network Settings] > [Wireless]** タブでワイヤレス SSID、RF プロファイル、AP プロファイルを作成していることを確認します。
- 必要に応じて、**[Design] > [CLI Templates]** ウィンドウでテンプレートを作成したことを確認します。
- 必要に応じて、**[Design] > [Feature Templates]** ウィンドウでモデル構成設計を作成したことを確認します。

ステップ 1 左上隅にあるメニューアイコンをクリックして次を選択します：**[Design] > [Network Profiles]** の順に選択します。

ステップ 2 **[Add Profile]** をクリックし、**[Wireless]** を選択します。

ステップ 3 **[Profile Name]** フィールドに有効なプロファイル名を入力します。

ステップ 4 サイトをプロファイルに追加するには、**[Assign]** をクリックして、次の手順を実行します。

- a) **[Add Sites To Profile]** slide-in pane で、このプロファイルに関連付けるサイトのチェックボックスをオンにします。

親ノードまたは個々のサイトを選択できます。親サイトを選択すると、その親ノードの下にある子もすべて選択されます。サイトの選択を解除するには、チェックボックスをオフにします。

- b) **[保存 (Save)]** をクリックします。

ステップ 5 次のタブで必要な設定を構成します。

- **[SSIDs]**：詳細については、[ネットワークプロファイルへの SSID の追加 \(9 ページ\)](#) を参照してください。
- (オプション) **[AP Zones]**：詳細については、[ネットワークプロファイルへの AP ゾーンの追加 \(10 ページ\)](#) を参照してください。
- **[Model Configs]**：詳細については、[ネットワークプロファイルへのモデル設定の追加 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- **[Templates]**：詳細については、[ネットワークプロファイルへのテンプレートの追加 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- (オプション) **[Advanced Settings]**：詳細については、[ネットワークプロファイルのインターフェイスの詳細構成 \(22 ページ\)](#) および [ネットワークプロファイルへの AP グループ、Flex グループ、サイトタグ、およびポリシータグの追加 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 **[Save]** をクリックして、ネットワークプロファイルを追加します。

Catalyst Center は、**[Design] > [Network Profiles]** ウィンドウに新しいネットワーク プロファイルを表示します。

ネットワークプロファイルへの SSID の追加

始める前に

[Design] > [Network Settings] > [Wireless] > [SSIDs] ウィンドウでワイヤレス SSID が作成済みであることを確認します。

ステップ 1 **[Add a Network Profile]** ウィンドウ (**[Design] > [Network Profiles] > [Add Profile] > [Wireless]**) で、**[SSID]** タブをクリックします。

ステップ 2 **[Add SSID]** をクリックします。

ステップ 3 **[SSID]** ドロップダウンリストで、作成済みの SSID を選択します。

ステップ 4 (任意) **[WLAN Profile Name]** フィールドに、WLAN プロファイルの名前を入力します。

Catalyst Center は WLAN プロファイル名に基づいてポリシープロファイル名を自動的に生成します。

(注) SSID がネットワークプロファイルに関連付けられている場合、Catalyst Center がプロビジョニング中にこの WLAN プロファイル名を使用します。SSID を複数のネットワークプロファイルに関連付ける必要がある場合は、プロビジョニングの失敗を防ぐために、WLAN プロファイル名がすべてのネットワークプロファイルで SSID に対して一意であることを確認してください。

ステップ 5 **[Yes]** または **[No]** オプションボタンを使用して、SSID がファブリックであるか、非ファブリックであるかを指定します。

非ファブリック SSID を作成する場合は、**[No]** をクリックして、次のパラメータを設定します。

- **[Enable SSID Scheduler]** トグルボタンをクリックし、ドロップダウンリストからスケジューラを選択します。
- トラフィックスイッチングにインターフェイスを使用するには、**[Interface]** オプションボタンをクリックします。**[Interface Name]** ドロップダウンリストから、SSID のインターフェイス名を選択するか、プラスアイコン (+) をクリックしてワイヤレスインターフェイスを作成します。
- トラフィックスイッチングに VLAN グループを使用するには、**[VLAN Group]** オプションボタンをクリックします。**[VLAN Group Name]** ドロップダウンリストから、SSID の VLAN グループ名を選択するか、プラスアイコン (+) をクリックして VLAN グループを作成します。
- SSID にアンカーを追加するには、**[Do you need Anchor for this SSID?]** エリアで、**[Yes]** をクリックします。デフォルトでは、**[No]** が選択されています。

- [Yes] を選択した場合は、[Select Anchor Group] ドロップダウンリストから、SSID のアンカーグループを選択します。アンカーグループの詳細については、「[アンカーグループの作成](#)」を参照してください。
- [No] を選択した場合、[Flex Connect Local Switching] チェックボックスをオンにして、WLAN のローカルスイッチングを有効にします。

SSID にアンカーを追加することを選択した場合、[Flex Connect Local Switching] を有効にすることはできません。

SSID に関して [Flex Connect Local Switching] を有効にしている場合、ネットワークプロファイルがマッピングされているフロア上のすべての AP が FlexConnect モードに切り替わります。

[Flex Group] オプションは、[Advanced Settings] タブで有効になります。詳細については、[ネットワークプロファイルへの AP グループ、Flex グループ、サイトタグ、およびポリシータグの追加 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

ローカルスイッチングを有効化すると、この WLAN をアドバタイズするすべての FlexConnect AP がデータパケットをローカルにスイッチングできるようになります。

- [Flex Connect Local Switching] チェックボックスをオンにしている場合は、[Local to VLAN] フィールドに VLAN ID の値を入力します。

ステップ 6 (任意) 別の SSID を追加するには、プラスアイコン (+) をクリックしてそのパラメータを設定します。

次のタスク

ネットワークプロファイルのその他の必要な設定を構成します。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワークプロファイルへの AP ゾーンの追加

AP ゾーンを使用すると、同じサイト上の一連の AP に異なる SSID と RF プロファイルを関連付けることができます。デバイスタグを使用して、AP ゾーンを適用する AP を識別できます。[AP Zones] タブから、デバイスタグのネットワークプロファイルで設定された SSID のサブセットを使用して個別の AP ゾーンを作成できます。

Catalyst Center は、AP プロビジョニング中に AP ゾーン設定を AP に適用します。



- (注)
- Catalyst Center は、プラグアンドプレイ (PnP) プロセスから要求された AP に AP ゾーン設定を適用しません。
 - AP ですでにプロビジョニング済みの AP ゾーンの設定を更新する場合は、ワイヤレスコントローラを再プロビジョニングする必要があります。AP を再プロビジョニングする必要はありません。

AP プロビジョニング時：

- AP のデバイスタグとサイトに基づいて、Catalyst Center は対応する AP ゾーンを選択し、RF プロファイルを自動的に割り当てます。
- AP に 2 つの AP ゾーンが設定されている場合、必要な AP ゾーンを選択できます。
- AP の AP ゾーンがない場合は、必要な RF プロファイルを選択できます。

始める前に

[Design] > [Network Settings] > [Wireless] > [SSIDs] ウィンドウでワイヤレス SSID が作成済みであることを確認します。

-
- ステップ 1 [Add a Network Profile] ウィンドウ ([Design] > [Network Profiles] > [Add Profile] > [Wireless]) で、[AP Zones] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Add AP Zone] をクリックします。
- ステップ 3 [AP Zone Name] フィールドに、AP ゾーンの名前を入力します。
- ステップ 4 [Device Tags] ドロップダウンリストから、選択するデバイスタグの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [RF Profile] ドロップダウンリストから、RF プロファイルを選択します。
- ステップ 6 [SSID] ドロップダウンリストから、SSID を選択します。
- ステップ 7 (任意) 別の AP ゾーンを追加するには、プラスアイコン (+) をクリックしてそのパラメータを設定します。
-

次のタスク

ネットワークプロファイルのその他の必要な設定を構成します。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

AP ゾーン設定を AP に適用するには、次の手順を実行します。

1. ワイヤレスコントローラを再プロビジョニングします。詳細については、[Cisco AireOS コントローラのプロビジョニング](#)および[Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのプロビジョニング](#)を参照してください。
2. AP をプロビジョニングします。詳細については、[シスコ製 AP のプロビジョニング : Day 1 AP プロビジョニング](#)を参照してください。

ネットワークプロファイルへのモデル設定の追加

モデル構成設計をネットワーク プロファイルに添付できます。

ステップ 1 [Add a Network Profile] ウィンドウ (**[Design]** > **[Network Profiles]** > **[Add Profile]** > **[Wireless]**) で、[Model Configs] タブをクリックします。

ステップ 2 [Add Model Config] をクリックします。

ステップ 3 [Add Model Config] slide-in pane で、次の操作を実行します。

1. [Device Type] をクリックして、デバイスタイプを選択します。
[Search] フィールドに名前を入力してデバイス名を検索するか、[Switches and Hubs] または [Wireless Controller] を展開してデバイスタイプを選択できます。
2. [Wireless] を展開し、このネットワークプロファイルに関連づけるモデル構成設計を選択します。
3. [APPLICABILITY] の [Tags] ドロップダウンリストから、該当するタグを選択します。
4. [Add] をクリックします。

次のタスク

ネットワークプロファイルのその他の必要な設定を構成します。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワークプロファイルへのテンプレートの追加

テンプレートをネットワークプロファイルに関連付けることができます。

始める前に

[Design] > **[CLI Templates]** ウィンドウで必要なテンプレートを作成する必要があります。詳細については、[テンプレートの作成](#) を参照してください。

ステップ 1 [Add a Network Profile] ウィンドウ (**[Design]** > **[Network Profiles]** > **[Add Profile]** > **[Wireless]**) で、[Templates] タブをクリックします。

ステップ 2 次の手順を実行します。

- 導入準備テンプレートを関連付けるには、[OnBoarding Template(s)] タブをクリックします。
- Day-*n* テンプレートを関連付けるには、[Day-N Template(s)] タブをクリックします。

ステップ 3 [Attach Template] をクリックします。

ステップ 4 [Add Template] slide-in pane で、次の手順を実行します。

- a) [Template] で、テンプレート名をクリックします。

[Search] フィールドに名前を入力してテンプレートを検索するか、プロジェクトを展開してテンプレートを選択できます。

- b) [Add] をクリックします。

次のタスク

ネットワークプロファイルのその他の必要な設定を構成します。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワークプロファイルへの AP グループ、Flex グループ、サイトタグ、およびポリシータグの追加

Catalyst Center では、ネットワークプロファイルへの AP グループ、Flex グループ、サイトタグ、およびポリシータグの追加が可能です。AP グループとフレックスグループを事前プロビジョニングすると、反復的な構成変更の必要がなくなることで AP プロビジョニング時の時間を節約でき、デバイス間の一貫性を確保できます。**[Design] > [Network Profiles] > [Wireless]** ウィンドウの **[Advanced Settings]** タブで、AP グループ、サイトタグ、およびポリシータグのカスタム名を定義できます。



-
- (注) Flex グループ設定は、ネットワークプロファイルに少なくとも1つのフレックススペースの SSID が関連付けられている場合にのみ使用できます。
-

Catalyst Center は、シスコワイヤレスコントローラのプロビジョニング時に、**[Advanced Settings]** タブの **[Provision Group]** 設定で指定された新しく追加されたカスタム名を設定して AP に適用します。カスタム名を設定しない場合、Catalyst Center は自動生成された AP グループ名と AP のタグを使用します。



(注)

- AP グループと Flex グループの設定を Cisco AireOS ワイヤレスコントローラに適用できません。
- サイトタグとポリシータグの設定を Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに適用できます。

新しく追加されたサイトとポリシータグの設定は、AP のプロビジョニング時に適用されます。ワイヤレスコントローラを単独でプロビジョニングしても、新しいカスタムタグは AP に設定されません。プロビジョニング後にタグを変更する場合は、ワイヤレスコントローラ または AP を再プロビジョニングする必要があります。

ワイヤレスコントローラおよび AP をプロビジョニングまたは再プロビジョニングするときは、次のシナリオに留意してください。

- ネットワークプロファイルにカスタムサイトやポリシータグが設定されていない場合、Catalyst Center では自動生成されたタグが使用され、これがワイヤレスコントローラに設定され、この変更が AP のプロビジョニング時にのみ AP に適用されます。
- ネットワークプロファイルにカスタムサイトやポリシータグが設定されている場合、Catalyst Center ではカスタムタグがワイヤレスコントローラに設定され、この変更が AP のプロビジョニング時にのみ AP に適用されます。
- ワイヤレスコントローラおよび AP が自動生成タグを使用してすでにプロビジョニングされている状態で、ネットワークプロファイルで新しいカスタムタグを作成する場合は、ワイヤレスコントローラまたは AP を再プロビジョニングして変更を適用する必要があります。
- ワイヤレスコントローラおよび AP がすでにカスタムタグを使用してプロビジョニングされている状態で、ネットワークプロファイルからカスタムタグを削除する場合は、ワイヤレスコントローラまたは AP を再プロビジョニングする必要があります。
 - ワイヤレスコントローラを再プロビジョニングすると、カスタムタグ設定が削除され、ワイヤレスコントローラおよび関連する AP に自動生成されたタグが設定されます。
 - ワイヤレスコントローラを再プロビジョニングせずに、AP を直接再プロビジョニングすると、自動生成されたタグが AP に設定されますが、カスタムタグ設定はワイヤレスコントローラから削除されません。タグは、次回のワイヤレスコントローラの再プロビジョニング時に削除されます。
- FlexConnect ネイティブ VLAN のオーバーライドが設定されていて、サイトタグがサイト内のすべてのフロアに対して同じカスタム Flex プロファイルにマッピングされている状態で Catalyst Center にアップグレードした場合は、フロアごとに異なるサイトタグを使用してネットワークプロファイルを再設定する必要があります。再設定しないと、プロビジョニングが失敗する可能性があります。

エリア内のサイト（建物またはフロア）全体で、同じ AP グループと Flex グループを使用できます。ただし、ネットワーク階層の複数のエリアで同じ AP グループと Flex グループを再利用することはできません。子サイトは、親サイトから AP グループと Flex グループを継承します。ただし、子サイトに AP グループまたは Flex グループを作成すると、親サイトから継承された設定は上書きされます。建物のさまざまなフロアで SSID が上書きされている場合、そのようなフロアでは AP グループまたはフレックス グループを再利用することはできません。

カスタムポリシータグは、サイト（エリア、建物、フロア）全体で再利用できます。サイト（エリア、建物、または建物内の複数のフロア）にカスタムポリシータグを割り当てると、そのサイトと AP ゾーンに対してプロビジョニングされたすべての AP が同じカスタムポリシータグを使用できます。デフォルトでは、カスタムポリシータグはデフォルト AP ゾーンの AP に適用されます。カスタム AP ゾーンの場合は、ポリシータグを編集し、必要なゾーンにカスタムポリシータグを割り当てます。

カスタムポリシータグを再利用する場合は、次の点に注意してください。

- 子サイトは、親サイトからカスタムポリシータグを継承します。ただし、子サイトに別のポリシータグを作成すると、親サイトから継承された設定はオーバーライドされます。
- 複数のサイトおよび複数の AP ゾーンにカスタムポリシータグを割り当てることができません。ポリシータグに関連付けられたすべての AP ゾーンは、同じ SSID のセットを共有する必要があります。SSID の設定は同じである必要があります。ポリシータグが、異なる SSID 設定を持つ複数の AP ゾーンに関連付けられている場合、ポリシータグまたはネットワークプロファイルの編集集中にエラーが表示されます。
- カスタムポリシータグを共有し、同じワイヤレスコントローラによって管理されているサイトのいずれかが、サイトレベルの SSID オーバーライドにより異なる SSID 設定を持つ場合、カスタムポリシータグは共有できません。このような場合、同じカスタムポリシータグで WLAN プロファイルとポリシープロファイルマッピングが異なるため、プロビジョニング（AP プロビジョニングまたはワイヤレスコントローラ プロビジョニング [Skip AP Provision] がオフの場合）中に検証エラーが発生します。失敗の理由を含むエラーメッセージが設定のプレビューに表示されます。このエラーメッセージには、カスタムポリシータグの不一致がある最大 5 つのサイトの詳細が示されます。カスタムポリシータグの使用方法の詳細については、「[カスタムポリシータグの再利用の使用例（17 ページ）](#)」を参照してください。
- カスタムポリシータグの再利用は、既存のインフラストラクチャからデバイス設定を学習する場合にもサポートされます。
- ポリシータグは、WLAN および RLAN プロファイルにマッピングされます。ポリシータグを変更すると、RLAN の設定に影響を与える可能性があります。
- ポリシータグの再利用は、Catalyst Center で自動生成されたタグではサポートされていません。

始める前に

- ネットワークプロファイルにサイトが割り当てられていることを確認します。

- Flex グループ名を作成するには、[SSIDs] タブで、[Flex Connect Local Switching] チェックボックスをオンにし、[Local to VLAN] テキストボックスで VLAN ID を定義して、非ファブリック SSID を Flex ベースの SSID としてマークしていることを確認します。詳細については、[ネットワークプロファイルへの SSID の追加 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

SSID に関して [Flex Connect Local Switching] を有効にしている場合、ネットワークプロファイルがマッピングされているフロア上のすべての AP が FlexConnect モードに切り替わります。

ステップ 1 In the **Add a Network Profile** window (**Design > Network Profiles > Add Profile > Wireless**), hover your cursor over **Advanced Settings** and click **Provision Group**.

ステップ 2 (任意) ネットワークプロファイルで AP グループを作成するには、[AP Groups and AP Profiles] を展開し、[Create Custom AP Group] をクリックします。

[Add AP Group] スライドインペインで、次の操作を実行します。

- [AP Group Name] フィールドに、AP グループ名を入力します。
- [AP Zone] ドロップダウンリストから、AP ゾーンを選択します。

ネットワークプロファイルに関連付けられたすべての SSID をブロードキャストするには、[Not Applicable] を選択します。

(注) このドロップダウンリストは、[AP Zones] タブでネットワークプロファイルに AP ゾーンを追加した場合に有効になります。詳細については、[ネットワークプロファイルへの AP ゾーンの追加 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

AP ゾーンを選択した場合、RF プロファイルが AP ゾーン設定から継承されます。

- [AP Profile] ドロップダウンリストから、AP プロファイルを選択します。

AP プロファイルを作成するには、[Create New] をクリックします。詳細については、[AP プロファイル](#) を参照してください。

- [RF Profile] ドロップダウンリストから、RF プロファイルを選択します。

(注) [AP Zone] ドロップダウンリストから AP ゾーンを選択した場合、このドロップダウンリストは無効になります。

- [Select Sites] エリアで、名前を入力してサイトを検索するか、[Global] を展開してサイトを選択します。
- [Save] をクリックします。

ステップ 3 (任意) ネットワークプロファイルで Flex グループを作成するには、[Flex Group] を展開し、[Create Flex Group] をクリックします。

[Create Flex Group] スライドインペインで、次の操作を実行します。

- [Flex Group Name] フィールドに、Flex グループ名を入力します。
- [Select Sites] エリアで、名前を入力してサイトを検索するか、[Global] を展開してサイトを選択します。
- [Save] をクリックします。

ステップ 4 (任意) ネットワークプロファイルでサイトタグを作成するには、[Site Tags and AP Profiles] を展開し、[Create Custom Site Tag] をクリックします。

[Create Site Tag] スライドインペインで、次の操作を実行します。

- a) [Site Tag Name] フィールドに、サイトタグ名を入力します。
- b) [AP Profile] ドロップダウンリストから、AP プロファイルを選択します。

AP プロファイルを作成するには、[Create New] をクリックします。詳細については、[AP プロファイル](#) を参照してください。

- c) [Flex Profile Name] フィールドに、Flex プロファイル名を入力します。

(注) [Flex Profile Name] フィールドを有効にするには、[SSID] タブで、[Flex Connect Local Switching] チェックボックスをオンにします。詳細については、[ネットワークプロファイルへの SSID の追加 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

- d) [Select Sites] エリアで、名前を入力してサイトを検索するか、[Global] を展開してサイトを選択します。
1 つのエリアの下で複数のエリアを選択できます。

- e) [Save] をクリックします。

ステップ 5 (任意) ネットワークプロファイルでポリシータグを作成するには、[Policy Tag] を展開し、[Create Policy Tag] をクリックします。

[Create Policy Tag] スライドインペインで、次の操作を実行します。

- a) [Policy Tag Name] フィールドに、ポリシータグ名を入力します。
- b) [AP Zone] ドロップダウンリストから、AP ゾーンを選択します。

(注) このドロップダウンリストは、[AP Zones] タブでネットワークプロファイルに AP ゾーンを追加した場合に有効になります。詳細については、[ネットワークプロファイルへの AP ゾーンの追加 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

- c) [Select Sites] エリアで、名前を入力してサイトを検索するか、[Global] を展開してサイトを選択します。
- d) [Save] をクリックします。

次のタスク

ネットワークプロファイルのその他の必要な設定を構成します。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

カスタムポリシータグの再利用の使用例

シナリオ 1

カスタムポリシータグは、サイトのオーバーライドがない複数のサイト間で共有され、すべてのサイトが同じシスコ ワイヤレス コントローラ によって管理されます。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
建物 1/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
建物 1/フロア 2	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1

このシナリオでは、カスタムポリシータグをサイト間で共有でき、同じカスタムポリシータグを使用して AP をこれらのサイトに正常にプロビジョニングできます。

シナリオ 2

カスタムポリシータグは、一部のサイトに SSID のサイトのオーバーライドがある複数のサイト間で共有され、すべてのサイトが同じワイヤレスコントローラによって管理されます。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
建物 1/フロア 1	サイトのオーバーライド	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
建物 1/フロア 2	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1

このシナリオでは、同じタグに同じ SSID の 2 つの異なる WLAN プロファイルとポリシープロファイルマッピングがあるため、カスタムポリシータグは再利用できません。同じカスタムポリシータグを使用してこれらのサイトに AP をプロビジョニングすると、プロビジョニング中に検証エラーが発生します。



- (注) このサイト階層の最初のサイト（建物 1/フロア 1）の AP プロビジョニングは成功しますが、カスタムポリシータグを再利用しようとしている建物 1/フロア 2 での 2 番目の AP プロビジョニング中に検証エラーが表示されます。

シナリオ 3

カスタムポリシータグは、一部のサイトに SSID のサイトオーバーライドがある複数のサイト間で共有され、サイトが個々のプライマリ ワイヤレスコントローラによって管理されます。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
建物 1/フロア 1	サイトのオーバーライド	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 2
建物 1/フロア 2	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1

このシナリオでは、カスタムポリシータグを再利用でき、同じカスタムポリシータグを使用して AP をこれらのサイトに正常にプロビジョニングできます。

シナリオ 4

カスタムポリシータグは、異なるポリシープロファイル（既存のインフラストラクチャから学習）を持つサイト間で共有され、すべてのサイトが同じワイヤレスコントローラによって管理されます。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシー プロファイル	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
建物 1/フロア 1	なし	プロファイル 1 (既存のインフラストラクチャから学習)	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
建物 1/フロア 2	なし	プロファイル 2 (既存のインフラストラクチャから学習)	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1

このシナリオでは、同じタグが同じワイヤレスコントローラの同じ SSID の 2 つの異なるポリシープロファイルにマッピングされるため、カスタムポリシータグは再利用できません。同じカスタムポリシータグを使用してこれらのサイトに AP をプロビジョニングすると、プロビジョニング中に検証エラーが発生します。



- (注) このサイト階層の最初のサイト（建物 1/フロア 1）の AP プロビジョニングは成功しますが、カスタムポリシータグを再利用しようとしている建物 1/フロア 2 での 2 番目の AP プロビジョニング中に検証エラーが表示されます。

シナリオ 5

カスタムポリシータグは、一部のサイトにプライマリワイヤレスコントローラのサイトのオーバーライドがない場合と、セカンダリワイヤレスコントローラのオーバーライドがある場合の複数のサイト間で共有されます。すべてのサイトが同じプライマリワイヤレスコントローラによって管理され、N+1 HA が設定されています。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ	Secondary ワイヤレスコントローラ
建物 1/フロア 1	グローバルレベルからのオーバーライドなし	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 2	-

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ	Secondary ワイヤレスコントローラ
建物 2	サイトのオーバーライド	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1	ワイヤレスコントローラ 2
建物 2/フロア 1	建物 2 からのオーバーライドなし	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1	ワイヤレスコントローラ 2
建物 2/フロア 2	建物 2 からのオーバーライドなし	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1	ワイヤレスコントローラ 2

このシナリオでは、すべてのサイトが同じ N+1 ワイヤレスコントローラ によって管理されているため、カスタムポリシータグをワイヤレスコントローラ 2 に再利用することはできません。同じタグの同じワイヤレスコントローラ（ワイヤレスコントローラ 2）の同じ SSID に、2 つの異なる WLAN プロファイルとポリシー プロファイル マッピングがあるからです。ワイヤレスコントローラ 2 をプロビジョニングすると、検証エラーが発生します。ただし、ワイヤレスコントローラ 1 のプロビジョニング中にエラーは発生しません。



(注) 検証は、ワイヤレスコントローラ ごとに個別に実行されます。

シナリオ 6

カスタムポリシータグは、同じネットワークプロファイルを持つエリア間で共有されます。

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
エリア 1/建物 1/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
エリア 2/建物 2/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、 default-zone	ワイヤレスコントローラ 1 または 2

このシナリオでは、同じネットワークプロファイルの下で異なるエリアを管理するワイヤレスコントローラ 間でカスタムポリシータグを共有できます。

シナリオ 7

カスタムポリシータグは、複数のネットワークプロファイルを持つエリア間で共有されます。

例 1

Site	ネットワークプロファイル	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
エリア 1/建物 1/フロア 1	プロファイル 1	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
エリア 2/建物 2/フロア 1	プロファイル 2	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1 または 2

上記の例では、カスタムポリシータグは、異なるネットワークプロファイルを持つエリア間で再利用できます。

例 2

Site	ネットワークプロファイル	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
エリア 1/建物 1/フロア 1	プロファイル 1	なし	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1
エリア 2/建物 2/フロア 1	プロファイル 2	エリア 2 でのサイトのオーバーライド	カスタムポリシータグ 1、default-zone	ワイヤレスコントローラ 1 または 2

上記の例では、エリア 2 でのサイトのオーバーライドにより、カスタムポリシータグを再利用できません。

シナリオ 8

カスタムポリシータグは、複数の AP ゾーン間で共有されます。

例 1

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
エリア 1/建物 1/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、作業領域 (SSID 1)	ワイヤレスコントローラ 1
エリア 2/建物 2/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、廊下 (SSID 1)	ワイヤレスコントローラ 1

上記の例では、2 つの AP ゾーン (作業領域、廊下) に同じ SSID のセット (SSID 1) がある場合、これらの AP ゾーン間で同じカスタムポリシータグを再利用できます。

例 2

Site	サイトのオーバーライド	ポリシータグと AP ゾーン	Primary ワイヤレスコントローラ
エリア 1/建物 1/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、作業領域 (SSID 1、SSID 2)	ワイヤレスコントローラ 1
エリア 2/建物 2/フロア 1	なし	カスタムポリシータグ 1、廊下 (SSID 1)	ワイヤレスコントローラ 1

上記の例では、APゾーンに同じSSIDのセットがないため、カスタムポリシータグを再利用できません。



- (注) 共有カスタムポリシータグを再設定すると（たとえば、ポリシータグの AP ゾーンを別のタグと交換するなど）、まだ再プロビジョニングされていない他のフロアの既存の AP で設定の競合が発生します。まだプロビジョニングされていない AP は古い設定を使用しているため、これによりプロビジョニングが行われません。ただし、タグを共有するすべての AP が同じフロアにある場合は、共有カスタムポリシータグの再設定ができます。すべてのゾーンの AP を再プロビジョニングすると、AP は最新の設定で更新されます。

ネットワークプロファイルのインターフェイスの詳細構成

シスコ ワイヤレス コントローラに加わったインターフェイスで WLAN を VLAN またはサブネットにマッピングできます。ワイヤレス用のネットワークプロファイルのインターフェイスの詳細を構成できます。

ステップ 1 [Add a Network Profile] ウィンドウで ([Design] > [Network Profiles] > [Add Profile] > [Wireless]) で、カーソルを [Advanced Settings] の上に置き、[Additional Interface] をクリックします。

ステップ 2 追加のインターフェイスを作成するには、[Create New Interface] をクリックして、次の手順を実行します。

- [Add Interface] slide-in pane の [Interface Name] フィールドに、インターフェイスの名前を入力します。
- [VLAN ID] フィールドに、VLAN ID を入力します。有効な範囲は 0 ~ 4094 です。
- [Save] をクリックします。

または、[Design] > [Network Settings] > [Wireless] > [Interfaces & VLAN Groups] > [Interfaces] ウィンドウで追加のインターフェイスを作成できます。詳細については、[ワイヤレスインターフェイスの作成](#)を参照してください。

ステップ 3 ネットワーク プロファイルにインターフェイスを追加するには、次のいずれかを実行します。

- 必要な追加インターフェイスの横にあるプラスアイコン (+) をクリックします。
- 追加のインターフェイス名をクリックし、[Add Selected] をクリックします。

(注) 追加のインターフェイスを複数選択するには、**Shift** キーを押して追加したいインターフェイス名をクリックし、**[Add Selected]** をクリックします。

- インターフェイスをすべて追加するには、**[Add All]** をクリックします。追加したインターフェイスをフィルタリングするには**[Search]** フィールドを使用します。

次のタスク

ネットワークプロファイルに必要な設定を入力後、**[Save]** をクリックします。詳細については、[ワイヤレス用のネットワークプロファイルの作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。